



国際委員会だより

【第16回】

Message from International committee

実践的海外プロジェクト③ ～国内業務と比較した海外業務の魅力～

国際委員会
ベック・ビーン
白 彬 | BAIK Biehn

建設コンサルタンツ協会の「海外市場対応能力の支援」の一環として、国際委員会から海外業務を紹介する記事を継続して掲載しています。今回は、「国内技術者が海外事業に携わり感じたこと」をテーマに、国内業務と海外業務の違いや海外業務の魅力について、現場で活躍しているコンサルタントの声をお届けする全4回シリーズの第3回です。

インタビュー対象者プロフィール

対象者：工藤 勝 (Masaru KUDO) (37歳)
所属：(株)長大 海外事業本部
専門分野：設計・施工
事業ステージ：橋梁施工監理
経験年数：国内10年、海外6年
海外業務実施国：フィリピン、ベトナム、カンボジア、エジプト、ブータン、パプアニューギニア



写真1 現場事務所メンバーたちと(右側が工藤さん)

インタビュー内容

工藤さんは、社会人7年目から海外業務に3年間従事した後、国内部門に異動し、橋梁施工管理業務に携わってきました。現在は、海外業務専門の部署で主に橋梁案件の調査、設計、施工監理業務に従事しています。

これまでの経験を通じた海外業務について尋ねてみました。

- Q1. 海外業務をやりたいと思ったきっかけは何ですか？
- A1. もともと大きな仕事に携わりたいと思っていて、橋梁がその舞台となりました。国内では新たな橋梁建設工事が減っていますが、途上国では需要が増加する傾向にあり、海外業務に携わりたと思っていただけ、チャンスが巡ってきました。エジプトでの短期出張で海外適応能力があると認められ、その後、海外案件に携わっています。
- Q2. 国内業務と比較するとどのような違いや魅力がありますか？
- A2. 海外業務は国内業務に比べ、国内の基準に縛られる事なく、柔軟な発想で仕事を行える事が違いであり、魅力でもあります。特に、施工監理業務では、現地で調達できるもので施工をする場合があります。過去の経験を基に、色々と考え、日本ではやらないような事をやりますが、これって結構面白い結果になったりします。意外性に新鮮味を感じ、海外業務にはまっていくのかもしれない。客先説明もさることながら、自分の意思決定・責任が明確となり、物事が動く事に魅力を感じます。
- Q3. 最近携わった海外業務はどのような業務でしたか？

A3. 2011年6月から2012年1月まで7ヶ月間パプアニューギニア国のブーゲンビル島に派遣され、島の約北側半分(約180km)の東海岸線道路を整備する業務(事業費約30億円)に参加しました。この道路では河川が多く、頻繁な降雨により渡河が困難であり、交通の障害となっていました。そのため15箇所のコンクリート橋梁や河川構造物を整備する事で安全・安定したライフラインを確保し、かつ生産物の輸送ルートを確保する必要がありました。また、長年の分離独立運動により開発が遅れているブーゲンビル地域の社会経済の安定化及び活性化に寄与する事を目標とし、進められました。

Q4. パプアニューギニアは初めてとのことですが、どうでしたか？

A4. 最初は、パプアニューギニアと聞くと南国でとても楽しそうなイメージを持っていましたが、出張して“びっくり”。「楽しそう」とは正反対のお国でした。首都のポートモレスビーでは、安全面から1人でぶらぶらと街中を散策なんて事も出来ません。基本的にはホテルに缶詰状態です。海外出張時の楽しみの一つでもある、街の散策に制限(身に危険が迫る恐れがあるので仕方が無い)があるため、非常にストレスを感じる一つの要因となりました。

Q5. 本業務を実施する際に大変だったことは。

A5. 基本的に本業務で、施主に代わり構造物が所定の規格通りに建設されているか、不測の事態の発生もなく予定通り工事が進捗しているか、安全管理は適切に行われているかなど、現地ではほぼ毎日確認しました。これは、技術だけではなく、マネジメントエンジニアとして建設工事に主体的に関わりを持たなくてはならないことに大変さを感じました。そして、プロジェクトが進行するに従い、客先へ構造物が順次引渡され、式典などが行われますが、その様な式典の調整作業を行うことが一番大変でした。その理由は式典日が決まらない、招待客の出席予定が決まらないなどプログラムが流動的で、確定できない事でした。

Q6. このような海外業務に携わって、やりがいを感じることは何ですか？

A6. 実はプロジェクトも終わり、1年後に瑕疵検査を行うため、再びブーゲンビル島へ渡航しました。



写真2 No.15ラフ橋(単純合成H形鋼橋梁、延長40m、工事費1.3億円)完成後、地域住民たちのお祝いセレモニー

建設時は、河川整備が行われていないため、大雨により河道が移動し、施工に影響を与える事もありました。竣工後、河川が氾濫し、構造物に深刻な被害を与えているのではないかと不安もありましたが、先方政府が日常点検を実施し、必要な対策を講じた結果、構造物の機能は維持されました。また、構造物に落書き等も無く、地域住民が一丸となって維持管理を行っている事が確認できました。さらに、1年前に比べ、道路沿いにはマーケットが増え、整備された路線を使う車両の数が増えた事を実感できました。このような様子を見ると、当初の目標でもあるブーゲンビル地域の社会経済の安定化及び活性化に少しでも寄与する事が出来たのではないかとと思うと、大きなやりがいを感じました。

まとめ

海外に行って仕事するというのは国内ではあまり見られない出来事が起こりやすく、大変なことが多いと思いますが、その分、自分の人生の中で貴重な経験となり、忘れられないやりがいをきっと感じると思います。是非海外業務にチャレンジして見てください。